

史料群番号 16

史料群名	いいじま 飯島家文書	旧所蔵者	飯島主税
採訪時住所	茨城県鹿島郡白鳥村		
現在の住所	茨城県鉾田市		
採訪年月	昭和27（1952）年8月		
史料の年代	天明6（1786）年～大正13（1924）年	史料の総点数	763点
年代の内訳	近世 386点/近代 351点/不明 26点	筆写稿本	なし
既刊行目録	「平成十五年三月 水産総合研究センター所蔵古文書目録-茨城県（霞ヶ浦・北浦周辺地域）関係史料-水産総合研究センター・神奈川大学日本常民文化研究所」		

収蔵にいたる経緯

「漁業制度資料目録 第9集」のはしがきに「全国漁業制度資料収集事業の一環として利根川水系の歴史の変遷を明らかにすべく、1951年6月以降、二野瓶徳夫・萩原宜之・中地昶平は前後4回にわたって霞ヶ浦北浦地方の調査をおこなった」と記されている。

「漁業制度資料目録 第9集」の史料所在目録に、飯島主税氏を所有者とする史料群の記載があって、「旧名主、大部分の文書は散失し、ごく一部のみが残っている。受取、書簡、その他若干の帳面類のみである。」と説明され、「寄贈」と記されている。本史料群は、水産資料館に収蔵された後「飯島弥五左衛門家文書」と命名されたようだが、現在では混乱を避けるために「飯島家文書」の名称を用いている。

史料群の概要

近世と近代の史料が半々を占める。近世期の採訪地は鹿島郡札（ふだ）村で、明治22年に白鳥村、昭和30年に大洋村となり、平成17年に鉾田市に含まれた。

上記のように、飯島家は近世に名主をつとめた家だが、文書内容も、札村の村政に関わるものが多くを占め、典型的な村方文書としての特徴を示している。なお、札村は旗本四氏の相給である。漁業に関する史料はほとんど見られないが、河岸問屋として飯島弥五左衛門の名が史料中に登場する。「弥五左衛門」は飯島家の江戸時代の屋号であり、代々の通り名であった。飯島家は北浦水運を担う運送業者及び問屋であり、河岸問屋の連合体であるいわゆる北浦四十四ヶ津に属していた。

なお、本史料群の詳細については「水産総合研究センター所蔵古文書目録」を参照していただきたい。

